

発行日 平成29年 7月24日

Nougyou Nouson

いしのまきNN通信



トヤケ森から望む石巻管内の風景

「いしのまきNN通信」は、石巻地域の農業農村整備事業に関連する活動等を広くお知らせすることを目的に、年3回程度発行しています。掲載希望の情報等がありましたら農村振興班までご一報ください。今後ともよろしくお願ひします。

石巻市牡鹿地区 7年ぶりの営農再開

第37号の目次

石巻市牡鹿地区 7年ぶりの営農再開	1
石巻市北上地区・雄勝地区 オリーブ苗木の植栽	2
奥松島地域 営農再開実証プロジェクト 宮戸8分区果樹植栽	3
田んぼの学校2017	
派遣職員の紹介	4

平成29年5月10日、石巻市牡鹿地区で、7年ぶりの営農再開を記念した水稻作付イベントが行われました。地元「牡鹿地区農地整備事業実行委員会」が主催したこのイベントには、地域農業者及び関係機関の職員約40名が出席しました。

牡鹿地区は海に面した水田地帯であり、東日本大震災の津波・地盤沈下により壊滅的な被害を受けました。復興まちづくりと農業振興の同時実現のため、県は農地の災害復旧事業とあわせて農地の大区画化整備と面的集積に取り組んでおり、平成28年1月に谷川浜工区、同年6月に大谷川浜工区の区画整理工事に着手しました。そして、平成29年春、谷川浜工区の4.5haの農地で7年ぶりに営農再開しました。

イベントでは、渥美浩晃実行委員長があいさつを述べ、「震災当初、この地で農業はできないのではという思いがあったが、関係機関の協力のもと営農再開することができた。牡鹿地区で持続可能な営農を実現し、後継者に繋げたい。」と、今後の営農に関する意気込みを示しました。また、イベントの最後に、牡鹿地区生産組合が復旧農地で田植えを行いました。

平成30年以降、残る谷川浜工区9.2haと大谷川浜工区8.8haの営農再開を目指します。



▲牡鹿地区生産組合及び関係機関のみなさん



▲牡鹿地区生産組合による田植えの様子

石巻市北限オリーブ研究会主催 オリーブ苗木植栽

平成29年4月、石巻市北限オリーブ研究会主催で、一般参加者と関係機関職員がオリーブの苗木を植栽しました。石巻市北上町月浜地区と雄勝地区の2地区で計360本のオリーブ苗木を定植し、この果樹を地域ブランドとして着実に育成するための第一歩を踏み出しました。

石巻市北限オリーブ研究会について

石巻市は、平成26年度から、東北地方ではあまり栽培されていないオリーブの実証栽培に取り組んでいます。市の新しい特産品となりうるこの果樹の栽培技術習得と生産体制確立を目指し、平成29年1月に「石巻市北限オリーブ研究会」の設立総会が開催されました。農業農村整備部は、この研究会の構成員として、ほ場整備事業を推進し、農業農村整備に関する地域ビジョン作成を支援します。

平成29年3月にオリーブ栽培技術・生産部会が開催され、活動内容について協議するなど事前準備を十分に行い、平成29年4月、石巻市北上町月浜地区と雄勝地区でオリーブの植栽作業が行われました。

石巻市北上町月浜地区での植栽

平成29年4月13日、石巻市北限オリーブ研究会主催で、一般参加者と石巻市及び関係機関担当者80名が、石巻市北上町月浜地区でオリーブ苗木250本を定植しました。

当日は、雨上がりの曇り空のもと、時折吹き付ける強風に震えながらの作業となりましたが、香川県から駆けつけてくださった「株式会社アライオリーブ」荒井代表の指導により、参加者は、スコップを手に額に汗しながら苗木の周囲に土寄せをしました。



▲北上町月浜地区で植栽作業を行った関係機関のみなさん

石巻市雄勝地区での植栽

平成29年4月27日、石巻市雄勝地区で、一般参加者と関係機関職員約90名がオリーブ110本を定植しました。

関係機関からあいさつと定植方法の説明があった後、参加者は土台に苗木を植える作業を行いました。日差しの強い中、参加者は、オリーブ研究会の徳水副会長や石巻農業改良普及センターの指導を受けながら土を盛り、1m近くまで育ったオリーブ苗木を植え付けました。参加者の中には13日のオリーブ植栽にも参加していた方もおり、また多くのボランティアの手助けもあって、作業はスムーズに進みました。



▲雄勝地区におけるオリーブ植栽の様子

石巻市北限オリーブ研究会は、今後の活動として、定植したオリーブの生育状況確認や先進地の視察等を計画しています。また、産学官民のネットワークを活用しオリーブを地域ブランドとして着実に育成するため、栽培技術向上、6次産業化、復興活用の各方面で活動を推進する予定です。

奥松島地域営農再開実証プロジェクト 宮戸8分区 果樹植栽イベント



▲イチジク植栽作業の様子



▲植栽作業に参加した農業農村整備部職員

平成29年4月21日、東松島市奥松島地区宮戸8分区で、地元の生産組合や関係機関職員約40名が、イチジク130本と柿80本を植栽しました。

奥松島地区では、平成26年度から、東日本大震災からの目に見える復旧・復興を目標に掲げる「奥松島地域営農再開実証プロジェクト」に取り組んでいます。また、プロジェクトの一環として、平成27年度から復旧した水田を果樹園として利用する試みを行っており、平成28年3月には宮戸6分区でイチジクと桃を、平成29年4月には宮戸8分区でイチジクと柿を植栽しました。

宮戸地域の農地を再生するために組織された「奥松島果樹生産組合いちじくの里」の尾形代表は、あいさつの中で、「復旧農地での果樹植栽の試みを成功させ、周辺地域のモデルとなるような取組にしていきたい。」と今後の抱負を述べました。

宮戸地域では、現在約2haの農地に350本あまりの果樹が生育しています。今後、さらに果樹植栽面積を拡げる計画です。

田んぼの学校2017（6・7月実施分）

石巻市河南地区では、多面的機能支払交付金事業に取り組む活動組織が地元の小学校と連携した広報・啓発活動を実施しています。平成29年度は、6月20日に鹿又小学校5年生が、7月12日に前谷地小学校5年生が校外学習を行いました。各地区の活動組織「鹿又ふるさと保全会」「前谷地ふるさと保全会」がそれぞれ実施に協力し、河南矢本土地改良区はじめ関係機関職員も参加しました。

鹿又小学校では農業水利施設見学会を開催し、児童たちは、中山揚水機場、鹿又第二揚水機場、曾波神排水機場を見学しました。施設見学を通して、児童たちは、農業に携わる人々へ感謝の気持ちを一層深めたようでした。

また、前谷地小学校では農業水利施設見学と生きもの調査を併せて実施しました。児童たちは、和湊揚水機場と箕入排水機場を見学した後、学校の近くの水路で水の汚れ具合とpHを調査し、田んぼに住む生きものを採取・観察しました。児童たちは積極的に質問をしたり、初めて見る生き物を捕まえたりと、新しいことをたくさん体験したようです。



▲鹿又小学校 農業水利施設見学
(鹿又第二揚水機場)

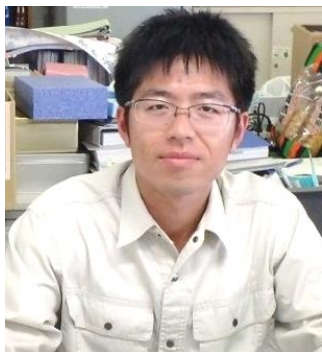


▲前谷地小学校 生きもの調査

災害復旧支援の自治法派遣職員のみなさん

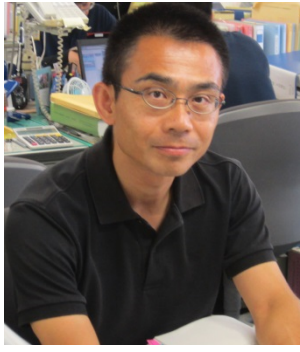
平成23年9月1日より、災害復旧支援のため県外から自治法派遣職員の方々に応援に来ていただいております。現在、当部では愛知県2名、兵庫県1名、徳島県2名、岡山県2名、島根県2名、神奈川県2名の方が応援に来ています。また、これまでに三重県、佐賀県の職員の方も応援に来ていただきました。当部では、自治法派遣職員のみなさんと協力し、農地・農業用施設の災害復旧業務に取り組んでまいります。

▼【農地整備第一班】



島根県派遣 左:伊藤さん 右:曾田さん

▼【農地整備第二班】



愛知県派遣(7月) 左:丹羽さん 右:加藤さん



岡山県派遣 左:石戸さん 右:牧野さん

▼【農地整備第三班】



徳島県派遣 左:野木さん 右:吉田さん

◀【水利施設保全班】

兵庫県派遣 坂本さん



▶【管理指導班】

神奈川県派遣

左:伊藤さん 右:千葉さん



宮城県東部地方振興事務所 農業農村整備部

(編集: 農村振興班)

一日も早い災害復旧と
地域復興をめざして

〒986-0812 石巻市東中里1丁目4-32

Tel 0225(95)1411 (内) 489 Fax 0225(96)4880

E-mail et-ss-nos@pref.miyagi.lg.jp

URL <http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-ns/>